

機能評価 更新認定

最新基準、医療の質向上

三愛病院



更新認定を喜ぶ(左から)千葉理事長・院長、納谷看護部長、斉木事務部長

登別の三愛病院(千葉泰二理事長・院長、5304床)が4月1日付で、日本医療機能評価機構(東京)による病院機能評価(精神種別)の更新認定を受けた。医療安全や感染防止などの対応力が求められた最新基準での認定で通算3回目。スタッフは医療の質向上へモチベーションを高めている。病院機能評価は、病院の組織全体の運営管理、提供される医療について同機構が第三者の立場から評価を行うツール。一定の水準を満たした病院は認定病院となり、公的に医療の質が担保される。

同院は2006年(平成18年)に胆振、日高管内の

精神病院として初認定を受けた。千葉理事長は「当時は院内マニュアルもなく、組織運営が課題だった。規模が大きくなるほど組織的動きが重要で、第三者の指導を受けることにした」と振り返る。

課題把握や改善方針検討など、長期にわたる認定への準備作業を通じ「病院が変わった」。事務、看護をはじめ院内各委員会は横断的に協議し、物事を進めることが習慣化。経営参画への意識が高まり、仕事への意欲が向上したという。

斉木敬事務部長、納谷公

子看護部長によると、今回は14年春から更新への準備を開始。院内一丸となり、従来のマニュアル重視から変化し、ケアプロセスやチーム医療、対応力が要求された最新基準での認定を取った。

千葉理事長は「医療の質向上に加え、制度改正に対応した最新目線での改善を図っていくためにも第三者評価は有効。機構による訪問調査は院内に緊張感を生み出し、課題発見、各種改善にもつながっています」と話している。

(鞆子理人)

きょうアーニスで看護イベント

三愛病院(千葉泰二理事長・院長)の看護週間イベントがきょう13日午前10時半から、登別市中央町のショッピングセンター・アーニスで行われる。相談や測定事業ほか、手洗いチェッカー体験などを企画した。

看護部主任会が中心となり内容を練り、毎年実施している。看護師や栄養士、作業療法士などの専門家が対応する。午後2時まで。

各種測定や相談のほか、今年は自動体外式除細動器(AED)体験なども実施。ナースコスチュームによる写真撮影会、ストレッチ体操なども予定している。介護用品展示、患者による作品展もある。

納谷公子看護部長は「気軽に立ち寄ってもらえれば」と来場を呼び掛けている。